

表題： DSC 勉強会	
日時： 2010/8/6(金) 16:30～18:00	場所： 慶応義塾大学三田キャンパス北館ホール
<p><b>1. 調査研究会（15:00～16:00）</b> このあとに休憩をはさみ、DSC 勉強会を開始。</p> <p><b>2. 各部部会からの報告</b></p> <p><b>2-1. システム部会</b> 部会内勉強会を開催。 ヤマハ様に製品化に向けて開発中の TLE スピーカーの講演をして頂いた。 現在はサイネージとモバイル端末の連携を検討している。 具体的にはアンドロイド携帯やプロトコルレベルの話を深堀した。 目標は、「デジタルサイネージ未来像の早期実現」 今後の進行としてはまずコンセプトガイドライン作成を行う。</p> <p><b>2-2. 指標部会</b> ・ 媒体データの収集を改めた行う ・ 視認認証カメラの調査 視認認証カメラの仕様について調査、指標的な視点からも 標準仕様、もしくは表現について検討を測る 新井氏（NTT）を中心に調査検討</p> <p>次回開催 8 月 24 日（火）16 時～ DSC 会議室 プロダクション部会のメンバーを招いて部会を開催</p> <p><b>2-3. ロケーション部会</b> システム部会と連携をしていこうという流れがある。 厳しいのかもしれないという話もあるが。</p> <p>・ 全国鉄道広告振興協会 鉄道の車両内でのフェリカチップを設置し、携帯電話との連動の連携実験を行う予定（電車内ではまだ行っていないので）</p> <p>システム部会の皆さまからご講演と言う形で協力してもらう場合もある。</p>	

### 2-3. プロダクション部会

7月28日では各WGからの報告、今年度予算について話した

次回の部会は8月26日16時～

コンテンツ演出WGはコンテンツ指標について話した。次回8月下旬に行う。

### 2-4. 国際標準戦略部会

新しいメンバーを迎えての2回目の会合を行った。

システム部会でまとめている技術指標を英語化しましょうといった海外に情報発信をすすめていきましょうという議論がなされた。

8月25日午前中に第3回目の部会を行う。（@三菱総研会議室）

#### ・政府のICT政策に対するタスクフォース

7月上旬にシンガポール等のアジア先進国での話し合いの中で

韓国のコリアテレフォンからは、DSは韓国でも普及しており、コリアテレフォンはネットワークサプライヤーになっているとの報告があった。

中国ではIPTVではプライベート向けサービス、DSはパブリック向けのサービスといった形で標準化項目があるのではないかという話があった。

#### ・今後の対応

標準化項目を具体化して、中国、韓国、シンガポールと議論を継続するとともに欧米の団体への提案を検討していくという話し合いの方が政府のタスクフォースの中で議論されているということを情報提供してもらった。

## 3. ゲストプレゼンテーション

### 3-1. 石川 様（株式会社ネクストウェーブ）

“ワンソースマルチウィンドウ表示を可能とする中間フォーマット「.CAST」の開発状況について”

「.CAST」とは？

⇒便利なフォーマット。柔軟に対応できる配信用コンテナフォーマットが必要。

そこで「.CAST」を使い、ワンソースマルチウィンドウを実現した。コンテンツ構成要素に

対し構造化処理を行う。

- ・「.CAST」のメリット

①コンテンツ制作の作業量が効率良くなる。1つのコンテンツを創れば大多数のサイネージへ配信が可能になる。コンテンツの共通管理・保管が容易になる。

②サイネージと各種モバイル機器との連携が容易に。

(例) 街角のサイネージ端末に送られた雑誌を紙に印刷したり、タブレットPCに表示させることができるように、フォーマットを創ることが可能になる。

- ・「.CAST」の詳細

情報構造ツリーデータ

情報素材 ディレクトリ格納

特定のデータベースに依存しないようにしている

- ・表示制御メタデータ (検討中の項目例)

1. 表示順序の指定

⇒基本的には情報構造ツリーの順序に従う

階層が深い場合にどうするかを指定

2. 表示時間の指定

⇒サイネージシステムとしての要件を抽出

3. レイアウト表示領域や同時表示の指定

4. 情報の重要度や優先度によって表示を仕分ける

<コンテンツ制作ガイドライン及び変換手法の検討>

- ・各種フォーマットから.CAST への変換 .CAST から再生フォーマットへの変換手法を検討

- ・「新聞・書籍・雑誌の中間フォーマット」からの変換

<将来のデジタルサイネージのサービス全体像>

- ・街角サイネージ

ここに情報がどんどん入っていき、この近くによると、フリーペーパーの取得ができたりする。もし人数が多ければエリア放送で配る。

- ・空港などの交通機関

そこに置かれているサイネージの近くによると、柔軟なフォーマットでその地域の交通の情報を様々な端末に渡すことができるようにする。

### 3-2. ミヤヒロ 様（京セラ株式会社）

“スポットワンセグとホワイトスペースの活用”

本日の趣旨：ロケーションメディアの課題や可能性を考える場  
スポット放送で何ができるのか？

#### <スポットワンセグ概要>

通常の領域とは異なる特定エリア向けワンセグ放送  
電波到達範囲は半径数メートル～数百メートル  
市販のワンセグ携帯電話などで受信可能

- ・実証例：篤姫館（鹿児島）

- ・実証例：Jリーグ（京都）  
サンガコンテンツを配信

- ・続きリンク

現地でスポット放送を見た人が帰宅後にPC上で  
「続き映像の視聴」や「特典付き購入」ができる仕組み

#### <スポットワンセグ利用のメリット>

- ・サービス提供者メリット

来場者の満足度向上

⇒各種、商業施設の来場者にコンテンツやガイドを提供し、CS向上  
広告効果/物販効果

#### <ホワイトスペースの概要>

デジタル放送に移行するにあたってのチャンネルが空く  
そこを利用する

#### <IPDC概要>

デジタル放送波にIPパケットを載せて、データを送る。

#### <スポットIPDCモデル類型>

- ・ロケーション

商業・文化施設

⇒スタジアム、ホール

交通機関

⇒駅ホーム、電車内

居住場所

⇒自宅、寮、病棟

このロケーションに応じて端末を考える

例) モバイル型（携帯・スマートフォン）は商業施設で使う

コンテンツはフロー型メディア（その場で視聴するコンテンツ）にする

<スポットIPDC普及促進上の重要問題>

- ・エリア検知

⇒番組表配信等

- ・投資対効果

- ・サービス運用

管理団体はどうするのか？

<全体構成と普及要件>

ロケーション特性の考慮

全体の管理団体

<スポット放送とサイネージ>

1. サイネージ端末で受信

2. サイネージ端末が送信

大型サイネージでキャッチし手元ケータイに誘導

ケータイには深堀情報を配信すると同時に投票等をできるようにする。

3. その他

映像だけではなく、音だけの端末があってもいいのでは？

例) 電車が少し遅れていたら、早めに目覚ましができるようなもの

<まとめ>

マスメディアでもパーソナルでもないロケーションメディア、

マスとパーソナルのいいとこ取りのメディアになりえるかもしれない。

#### 4. 次回の勉強会

9月8日西校舎ホールで開催

以上